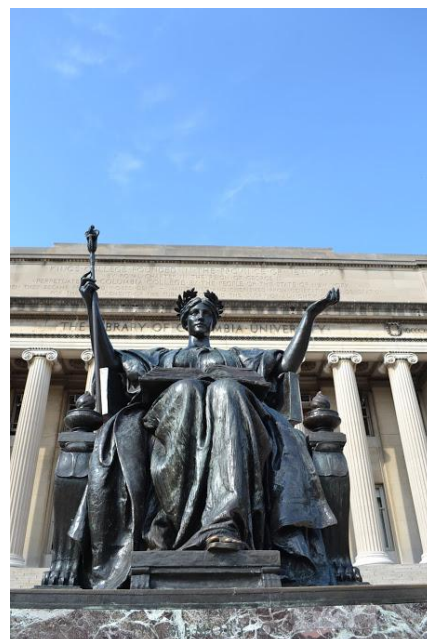


Japan-US Training and Exchange Program for Young Teachers

若手教員米国派遣交流事業に参加して

和歌山県立熊野高等学校 英語科教諭 榎本三紀子

外務省による平成28年度若手教員米国派遣交流事業の参加者として、3週間にわたって研修に参加してきました。全国で91名の教員が選ばれ、その中でニューヨークシティ(NY州)、ソルトレイクシティ(ユタ州)、ポートランド(オレゴン州)の3つのグループに分かれて行動しました。私はニューヨークのグループで、副団長も務めることになりました。東京とワシントンDCの研修は全体で行われ、その後メインの活動として2週間各地で集中的に研修を行いました。どの研修も記憶に残るものばかりだったのですが、その中でも3つに分けて感想を記します。



まず1つ目には研修の質の高さです。NYチームはコロンビア大学のティーチャーズカレッジという教員向けの施設で研修を受けることができました。お世話いただいた先生たちのご尽力で、現地の高校見学、現地の大学生との交流、NYにある国連総本部の見学の後、国連日本政府代表部の岸守参事官のお話を伺う機会などを設けていただきました。その他にお話いただいた方も藤崎日米協会会長やコロンビアビジネススクールのHugh Patrick先生など国際社会で大きな貢献をされているスピーカーの元、今後の指導に対して鼓舞する内容ばかりでした。特にコロンビア大学で指導いただいたリーディングを元にしたパラグラフ・ライティングやディスカッションについては授業にすぐに応用できる内容で、今後すぐにでも活かしていきたいと考えています。



次に印象的だったのが、参加メンバーとの交流です。北は北海道から南は沖縄まで、グループでは30人のメンバー、プラスOBを始めとするサポートメンバーが集まることで、情報交換のみならず、生涯の友人をつくることができました。中でも、グループ活動やルームメイトとの関わりを通じて、様々な意見交換を行い、お互いに意思疎通することができました。私たちのグループでは、「beyond images」というテーマで、現地でのインタビュー活動を行い、日本人のイメージと、それから付随する課題と可能性について調査しました。日本の教育が疑問視される中、それでもPISA等で高い水準を維持している日本の教育の質についても考え、良いところは活かし、課題点を改良していくことが大切であり、決して悲観することはないと再認識するにいたりました。

最後の3点目は、実際のアメリカでの生活を経験できたことです。私は米国での留学経験はあったのですが、教員という立場でアメリカに滞在することで、現代の米国に触れ、それを生徒に還元できるということが大きな収穫です。特にニューヨークは刺激的な都市で、様々な人種が集まる多様社会です。「多様性」とは英語で「diversity」と表現します。これはNYではとても大切にされている価値観です、しかし一方、移民やマイノリティを排除しようというグループも存在します。自由は大切なのですが、反対する一方的な側の権力も守られなければならないアメリカの言論の自由の存在に気づくことができました。その他にも、授業で指導者の意見ではなく、自分自身の意見とそれを主張する根拠について発表する大切さに触れ、日本でも自分の意見を持ち、それをしっかりと発信していくことが大切だと改めて認識しました。



アメリカで生活することで、アメリカの良い点や課題点を認識するだけでなく、距離をおいて自国を見つめることで、日本の教育についても見つめ直すことができた研修でした。特に印象に残っているのは、コロンビア大学の Community Impact という活動で、第二言語として英語を学ぶ移民の生徒の授業態度です。完璧でなくとも、一生懸命に前向きに授業に取り組むことで前進していく生徒たちを見て、私も自分の生徒たちのやる気をひきだしていきたいと強く感じました。今後は研修での成果を自分の授業や、和歌山県での英語教育に活かしていきたいと考えています。夏目校長先生、庄田前校長先生を始めとする職場の先生、周囲の方々、お忙しい中研修参加にご協力いただき、ありがとうございました。

